

## 入選作品

笑い声空の高さを追うように鼓膜を揺らす君のファルセット

青森県立八戸高等学校 一年 高橋 里奈

しゅうまいのように蒸される帰り道高層ビルの窮屈な空

星野高等学校 二年 伊藤 音々

歯磨きをしながら今家出たというきみが来るのは送り火のころ

東京都立豊多摩高等学校 二年 佐藤 七海

手のひらに刺さった鉛筆の芯は今も心臓目指して進む

立教池袋高等学校 二年 小幡 曜

いつの日か私も大人になるのかな 高くて黒い尖った塔に

神奈川県立光陵高等学校 一年 岩本 菖

プリントを貰った時に触れかけた君の手先が熱かったなんて

神奈川県立光陵高等学校 一年 檜下 小春

溶け落ちるオレンジの空 長くのびる影の中だけ手をつながせて

神奈川県立光陵高等学校 二年 藤井 渚央

指先で紡ぐ会話の端っこを紙飛行機にのせて、送信

神奈川県立光陵高等学校 三年 小野 愛加

朝昼晩朝晩朝晩早送りされてる日々にきれいな花を

神奈川県立光陵高等学校 三年 高橋 愛花

君の上げる高いトスが好きでしたギャラリー越しに見送った夏

岐阜県立飛騨神岡高等学校 三年 井上 実咲

でつぶりなオタマジャクシがあたのです早送りできない日常のすみに

高田高等学校 一年 加藤 晴香

「ばいばい」の余韻の染みこむミサンガは右の手首で小さくふれる

高田高等学校 一年 治田 優花

高空の君が見ている冠菊そのほつぺたを僕が見ている

兵庫県立伊丹高等学校 二年 大江 萌楓

友達と話してる君見ているとふと目があつて高くなる波

鳥取県立鳥取東高等学校 二年 飯田 有彩

無機質に赤く凍えて私の手鍵盤上で固まっていく

鳥取県立鳥取東高等学校 二年 岡嶋 真子

除光液で私の右手の青色を落としたとたん夏が終わった

鳥取県立鳥取東高等学校 二年 岡村 梨央

高くなったねと想うわたしの奥底に線がずれてく寂しさあるかも

鳥取県立鳥取東高等学校 二年 岡嶋 菜月

夕焼けを一緒に入れて送る手紙放課後静かな廊下を歩く

鳥取県立鳥取東高等学校 二年 小笹 由惟

あの人と高い空とが近かったちよつとだけでも広げたかった

鳥取県立鳥取東高等学校 二年 加藤 綜真

高いビルずっと一緒に見上げたい僕らの首が痛くなるまで

鳥取県立鳥取東高等学校 二年 城戸 洋輝

鍵盤を大きなその手で包み込む音は優しい夕暮れの色

鳥取県立鳥取東高等学校 二年 小谷 空

本棚でほこりをかぶったアルバムが僕へ送った海のおい

鳥取県立鳥取東高等学校 二年 山下 啓太

高く飛べもつと高くと打ち上げた白いボールは青く染まった

鳥取県立鳥取東高等学校 二年 米井 千咲

再会の言葉は声にならなくて行き場のない手ぶらんとおろす

鳥取県立米子東高等学校 三年 森田 悠芽

舞い戻る貸した教科書手紙付き振るとはらはら思いがはらはら

岡山県立岡山芳泉高等学校 三年 小椋 香奈子

